伊予の小京都

大洲だより

～新しくなる　肱川橋とともに　大洲の町を再発見～

第3号
平成28年
2月発行

発行元
肱川橋橋梁架替工事連絡協議会

大洲の発展を支えた赤レンガのモダンな館
明治の時代からその歴史を刻み続け
市民憩いの場として息づいている　おおず赤煉瓦館

電話番号／0893-24-1281
住　　所／大洲市大洲60番地
営業時間／9:00～17:00
休 館 日／12月29日・30日・31日
入館無料（別館の展示見学は有料）
駐車場有

ユニークなレンガを探してみて
建築中に子どもがいたずらしたのか？
レンガに残された指の跡！

「大洲は昔の街並みが残されていて、まち歩きが楽しいですね」と旅の人に声をかけられたことがある。確かに、そうかもしれない。NHKの連続テレビ小説「おはなはん」のロケ地として知られる「おはなはん通り」や「明治の家並み」、「臥龍山荘」。そういえば、レンガで舗装された横丁の先には、赤レンガの館があったなぁ。考え始めれば気になるもので…。早速、一眼レフをぶら下げて、街並み散歩へと出かけることにした。

赤レンガの館「おおず赤煉瓦館」の誕生は、明治34年（1901）。町内の有志数人の出資金により大洲商業銀行として建築された。当時はレンガ造りの建物が数多く造られていたというが、明治後期のレンガ造りの銀行としては南予で唯一。赤レンガの壁が青空に映えてとても美しい。レンガの積み方は主にイギリス積みを採用したというが、一部にフランス積みも見られる。積み方の違いに加え、高温で焼成した褐色のレンガを使用しているから、赤レンガとの対比も面白い。また、建物を見上げてみると、なんと屋根が瓦。赤レンガの壁に和瓦を葺いた寄棟造りの屋根という“和洋折衷スタイル”は当時の流行でもあったそうだ。

イギリス積みとフランス積み
上部がイギリス積み、下部がフランス積み。赤と褐色のコントラストが美しい

いざ、本館へと足を踏み入れてみる。1階では大洲の特産品や、地元の作家さんによる手づくりの雑貨などを扱っており、和小物やナチュラルな雑貨は女性ファンも多いという。2階はギャラリー&休憩所として活用。コーヒーなどを飲みながらゆっくり寛げるので、ここから瓦屋根など建物の意匠を見学するのもいい。

また、本館の奥には大洲商業銀行時に金庫室として使われていた「れんが資料室」があり、銀行当時の資料や煉瓦を展示。シネマコレクションや、1900年代初頭のカナダ・グリーンゲイブルズの世界を再現した別館も見ごたえ十分だ。別館では、「えひめいやしの南予博2016」にあわせて週末限定のカフェを4月からオープンするというので、その時期にまた訪れてみたい。

イベント＆トピックス

美人画展

風の博物館

企画展 銘仙と美人画展
開 催 日／1月9日（土）～3月7日（月）
大正時代から昭和初期に大流行した色鮮やかな着物の美と美人画の美しさをご観覧ください。

歌麿館

江戸時代の美 浮世絵展
開 催 日／1月9日（土）～4月4日（月）
喜多川歌麿の代表的な「美人画」を中心に復刻版を含め多数展示。この機会に歌麿の世界観をご覧ください。
開館時間／9:00～17:00（入館受付 16:30まで）
休 館 日／火曜日（祝日の場合は翌日）
料　　金／大人 500円、高校生 250円、小・中学生 200円、5歳以下無料

鹿野川荘

PH10の美肌の湯で優雅にバラ湯体験
開 催 日／2月13日（土）・14日（日）・3月12日（土）・13日（日）
入浴時間／11:00～21:00（札止め20:00）
入浴料金／中学生以上460円、4歳～小学生210円

問い合せ先／大洲市観光まちづくり課
☎0893（24）1717

郷土の味をたずねて

夏のうかい、秋のいもたき
大洲の風物詩を守り続ける

昼の日替わり定食は700円。
夜は予約制。
2階には40名ほど収容可能な座敷を完備

割烹料理・寿司 よねざわ

創業80年を超える割烹と寿司の店「よねざわ」。現在は三代目の米澤長幸さんがその暖簾を守っている。開業当初はうどんやいなり、定食などを提供する食堂だったというが、昭和32年から「うかい」、昭和41年から「いもたき」をはじめた。その当時は大変な賑わいを見せ、県内外から多くの客が訪れたが、平成に入り年々、登録業者も減少。それでも、米澤さんは大洲の伝統をまもるべく、船を出し続けている。「うかい」は6月から12月まで、「いもたき」は8月末から10月中旬まで。また、ランチタイムは日替わり定食、夜は予算に応じて郷土料理や寿司、割烹料理を提供している。

住　　所／大洲市大洲610
電話番号／0893-24-2639
営業時間／11:30～13:30、17:00～21:00（夜は予約制）
定 休 日／不定休

肱川橋架替工事リポート③

大洲市民の皆様に支えられ新しく生まれ変わる肱川橋です。

肱川橋は、大正2年の初代完成から100年以上、大洲市民の生活を支えてきました。現在は五代目の完成に向け、架替工事が進んでいますが、今回は迂回道路の建設において、現場代理人として現場監理を担当されている(株)西田興産の岡村公一郎さんに、工事の進捗状況などお話を伺いました。

肱川橋架替に向け、昨年より迂回道路(仮橋)の工事を進めてきました。その工程としては、まず、支持杭(H形鋼)をクローラークレーンとバイブロハンマーを用いて打ち込みます。支持杭は、橋全体と通行する車の重量を支える大切な柱ですので地中深く打ち込むだけでなく、さらに継ぎ材により支持杭同士を繋げて頑丈な柱にします。

今年の2月までにこの工程が完了しており、現在は次の工程、橋桁の設置を行っています。橋桁とは、人や車が通行する床板を支える骨組みのこと。大きなトラックで工場から運んだ橋桁を現場で組み立て、クレーンで渡していきます。橋桁は支持杭から支持杭までの間で一つなのですが、その重さはおよそ7トン。アフリカ象1頭と同じくらいの重さのものをクレーンで慎重に設置していきます。

今後の工程としては、実際に人や車が通行する道路となる覆工板の設置へと続きます。覆工板は振動でガタガタと音がしないよう、ボルトでしっかりと固定。最後にアスファルト舗装をして、仮橋の完成です。仮橋とはいえ、肱川橋完成まで大洲市民のみなさんの生活を支えるわけですから、安全に通行できるよう、慎重に作業を進めていきます。

五代目・肱川橋への想い

大洲市民にとってなくてはならない存在である肱川橋。今回の架替えに関しては、地震時の耐震性の強化や、橋脚を5本から3本に減らすことで川の流れをスムーズにするという治水上の問題の解消など、様々な課題解決を目的としています。さらに歩道を3メートルに広げるということで、歩行者や自転車の方もより通りやすくなります。大洲市民のみなさんが安心して利用できる橋を目指してまいります。特に寒い中での作業は大変なこともあります。近隣住民の方々、工事に携わる方々の健康と安全を第一に考え、残りの期間を頑張ってまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

◀H28年1月現在の工事の様子

～今後の工事イメージ～

橋桁を設置します
支持杭から支持杭までの間に橋桁を設置して(渡して)いきます
橋桁は人や車が通行する床版を支える骨組みです

【ポイント】
橋桁はトレーラーという大きなトラックで工場から運びます。現場で組立ててこの大きさになります。重さは7ｔでアフリカ象1頭と同じくらいの重さになります。

覆工板を設置します
橋桁の上に覆工板を設置して敷き詰めていきます
覆工板は人や車が通行する道路になる部分です

【ポイント】
覆工板は振動でガタガタ音がしないようにボルト固定します。

仮橋の完成です

【ポイント】
歩行者、車が快適で安全に走行できるようこの上にアスファルト舗装をします。

元気なお店をご紹介

大洲商店街探訪

歴史の風薫る大洲市。その商店街には、代々受け継がれている、活気のあるお店が立ち並んでいます。

ひらのや志ぐれ店

江戸から伝わる大洲名物志ぐれ
若き6代目が守る伝統の美味しさ

大洲の名物菓子として知られる志ぐれ。その歴史は江戸時代にさかのぼり、参勤交代の折に江戸家中に秘法菓子としてあったものの製法を習い、大洲藩内に伝わったのではないかといわれている。明治2年創業の「ひらのや志ぐれ店」では、この秘法を守りながら、現代人の口に合うよう改良を加えている。だから、その原料は北海道の小豆に大洲産の米粉、砂糖、伯方の塩のみといたってシンプル。小豆本来の風味と、うるち米を100%使用することでもっちりとした食感の中にも程よい歯ごたえを感じられる。また、無添加でその日作ったものを売り切るという姿勢を貫いている。

店を守る平井啓太郎さんは6代目。京都の製菓学校を卒業後、同じく京都の和菓子屋での修業を経て帰郷。「志ぐれ」の味を守りつつも、修業時代に培った腕を発揮し、生菓子も提案している。「和菓子には、人と人とを結ぶ力がある。そこが一番の魅力です」と語る平井さん。「大洲の志ぐれ」で地域の活性化を担うべく、日々、丁寧な仕事を続けている。

住　　所／大洲市大洲14
電話番号／0893-24-2746
営業時間／8:30～19:00（売切れ次第終了）
定 休 日／不定休

笹川写真館

家族の思い出をいつまでも
気づけばそこに、町の写真館

「一番古い記録として残されているのは、明治21年（1888年）頃の写真なのですが、創業年は実は定かではないんです」と話すのは四代目の現社長・土居義樹さん。「母方の祖父がやっていた笹川写真館を小さい頃から見てきて、これからも続いて欲しいという気持ちはありました。だから、跡継ぎをどうするかというとき、写真の経験はありませんでしたが、やってみようと思えたんです」。現在は妹さんと一緒に、家族で店を守っている。そんな100余年の歴史を持つ笹川写真館、元は大洲城のお膝元で開業。記念日などの家族写真や肖像写真を中心としていた。今でこそ当たり前になっている結婚式の「前撮り」も、その先駆けといわれる宇和島の写真館で先代が修業し、いち早く取り入れたという。

歴史ある写真館を継いだ土居さんが大切にしているのは「ぶれない」こと。フィルムからデジタルに変わり、撮影手法、見せ方など時代とともに変化し続ける中で、今まで培ってきたものを守り、「いつ見てもいいと思えるもの」を追求。人生の大切な1ページを、決して色あせない記憶として残してくれるだろう。

住　　所／大洲市中村246-3
電話番号／0893-24-3364
営業時間／9:00～19:00
定 休 日／火曜